

『Mind Charging』

第 188 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 1 月 15 日

チャールズ・ディケンズの名言



No one is useless in this world who lightens the burden of it to anyone else.

この世に生きる価値のない人などいない。

人は誰でも、誰かの重荷を軽くしてあげることができるからだ。

困っている時に助けてくれた人にこの言葉をかけられたら、きっとその人のことは心の底から信じていることができるだろうなと思いました。そして、仲間を思う気持ちの素晴らしさや人間の持つ“愛情の深さ”を改めて感じることができました。この言葉のような気持は本当に大切であり、持ち続けることが必要だと思います。人が一人でできることはとても少ないと思いますが、このような気持ちをそれぞれが持つことにより、大きな力となって広がっていくものだと思います。

それぞれが必死になって生きている中で、様々な困難に直面します。仲間がピンチの時に自分が必ず平和とは限りませんので、気持ちは持っていながらも実行に移すことが困難な時もあります。いわゆる『余裕』が持てないという状態ですが、そうであっても私は可能な限り『話す』ことはしよう心がけています。苦しい気持ちを話すことで心の重さを少しでも吐き出してほしいという『せめてもの思い』と、自分の余裕が 0 の時は余裕が 2 しかない人であっても『今あなたが 2 の余裕があるのなら、そのうちの 1 をください！私は 0 で大ピンチです！』とってしまう自分の弱さを自覚していることから、『1 だけならなんとか』という気持ちで心がけています。もしかしたら何の役にも立てていない『自己満足』なのかもしれません。そうだとしたら仲間にストレスを増やすだけで結果的にはマイナスなのかもしれません。そうならないためにも普段のコミュニケーションが重要です。常に思いやりを持ち、仲間が常に笑っていられるようにできたら最高ですね！（編集委員：入試広報室 鈴木）

チャールズ・ジョン・ハファム・ディケンズ(Charles John Huffam Dickens, 1812 年 2 月 7 日 - 1870 年 6 月 9 日)は、ヴィクトリア朝時代を代表するイギリスの小説家である。主に下層階級を主人公とし弱者の視点で社会を諷刺した作品を発表した。(Wikipedia 参照)